

論文内容要旨

論文題名：看護師の専門職連携実践（IPW）の必要性の認識と実践についての検討—より有効な専門職連携教育（IPE）の在り方の構築を目的として—

専攻領域：基礎・臨床・統合医療領域

氏名：藤後秀輔

【目的】チーム医療を推進させる動きが定着していく中で、教育機関・医療機関において看護師の卒前および現任教育における専門職連携教育（以下、IPE）が多彩な方法でなされるようになってきている。しかしこれら教育の専門職連携実践（以下、IPW）に対する直接的な効果は明確でない。そこで本研究では、看護師の臨床現場における IPW のために求められる、より効果的な卒前および現任教育での IPE の在り方を明確にすることを目的とした。

【方法】本学附属病院の看護師 2,625 名に対し、①基本的属性とこれまでに受けた IPE に関する項目、②「専門職連携実践のためのコア・コンピテンシー」を基に作成した「価値観/倫理」「役割/責任」「コミュニケーション」「チームワーク」のカテゴリーからなる「チーム医療のコンピテンシー（38 項目）」に対する「認識」と「実践」の状況について、自記式アンケートで調査した。卒前と現任 IPE の有無に分け、38 項目それぞれで得られた点数の全体の合計点（最大 152—最小 38）とカテゴリー毎の合計点（最大 44—最小 8）について、ノンパラメトリック検定の Mann-Whitney の U 検定を行い、 $p < 0.05$ を有意差ありとして比較検討した。また、現任 IPE に関する自由記述項目を場面ごとに分け検討した。

【結果】分析対象は 1,791 名（68.3%）だった。卒前 IPE は 27.6%、現任 IPE は 15.4% で行われていた。卒前 IPE を受けた看護師の年齢は有意に低かった。チーム医療の「認識」は 79.5% で、「実践」は 71.9% であり、「認識」と「実践」の比較では「実践」が有意に低かった ($p < 0.001$)。また「認識」「実践」とともに卒前および現任 IPE 有群で有意に高かった ($p < 0.05$) が、卒前と現任 IPE で有意な差はなかった。カテゴリー別では、現任 IPE は卒前 IPE に比較して「役割/責任」「コミュニケーション」「チームワーク」の「実践」に対する効果が高かった。現任 IPE に関する自由記述では、これら 3 カテゴリーについて教育効果有として記述されていた。

【考察】IPE の行われている割合は必ずしも多くはないが、卒前 IPE はより若年者で普及しつつあった。また卒前および現任 IPE の IPW に対する有効性が明らかになった。「認識」と「実践」の差については、実際に行われている業務をチーム医療として認識していない可能性があり、これが「実践」と差異が生じている原因の 1 つと考えられた。一方カテゴリー一別の結果から、卒前と現任 IPE で得られる効果が一部異なっており、それぞれの役割の

違いが示唆された。IPW の促進には相互を補填しあう継続した IPE が必要であることが明らかになった。

【結論】卒前 IPE では、チーム医療に対する知識をより体験的に学ぶための教育の重要性が、現任 IPE では、卒前 IPE を基盤にチーム医療実践能力を深めるための具体的な実践案を個々の臨床場面で学ぶための教育の重要性が明らかになった。さらに相互に不足する内容を補いながら、卒前から現任にかけて継続した専門職連携教育が必要であることが示唆された。